令和 8 年度第 2 回大分支部評議会の概要報告（速報）

開　催　日	令和 8 年 10 月 20 日（火）　14：00～16：00
開 催 場 所	ホルトホール大分　「202 会議室」
出 席 議 員	石井評議員、金﨑評議員、亀井評議員、原評議員、藤嶋評議員、 渡辺評議員　（五十音順）
議　　題	

（１）令和 9 年度平均保険料率について

（２）中期戦略プランについて

（３）支部健康づくり戦略について

（４）令和 9 年度事業計画策定に向けた意見聴取について

議 事 概 要 （主な意見等）	

<u>議題１.令和 9 年度平均保険料率について</u>

＜事務局＞

資料に基づき説明を行った。

＜被保険者代表＞

先々の財源について慎重に議論する必要があると思うが、目の前の生活が苦しいので少しでも保険料を下げてほしい。

＜被保険者代表＞

10 年前の収支シミュレーションでは、保険料率を維持しても 10 年後には単年度収支差がマイナスとなり、準備金が枯渇するということで、保険料率を据え置くと理解していたが、10 年経過した今、準備金は積み上がり続けている。準備金を 1 か月や３か月にして保険料率を下げるという検討もしてよいのではないか。

＜事業主代表＞

社員や経営者が恩恵を感じることができるような保険料率の引き下げを望む。

若い世代に限定して引き下げるのも 1 つの手ではないか。

＜事業主代表＞

準備金は 1 か月という法律の条文がある中においては、保険料率は下げるべきであり、1 か月以上積み立てておく必要があるのであれば法改正に向けて働きかけるべきである。経営者は、保険料収入が法律で定められている協会けんぽ以上に、物価高や賃金上昇といった先行きが見通せない中で保険料を負担していることを理解していただきたい。

＜学識経験者代表＞
　平均保険料率は大胆に下げるべき。物価高や賃金の伸び悩みに直面する状況下で保険料が高いことに懸念がある。財政規律は大切だが、健康づくりを推進する前段として生活不安の払拭が不可欠。

＜学識経験者代表＞
　実質賃金の低迷や社会保険料の負担増が、次世代を生み育てることへの障壁となっているのではないか。社会保険制度を持続可能とするためにも、保険料率を引き下げるべき。

議題 2. 中期戦略プランについて

＜事務局＞
　資料に基づき説明を行った。

＜学識経験者代表＞
　世界保健機構（WHO）の憲章にて、健康とは「肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態」と定義されているが、近年、「社会的な健康」の部分が重要であると言われている。地域社会、雇用環境などの社会的な安心が健康に影響している側面があるため、その点も戦略の中に入れてほしい。事業主・加入者等との健康経営やコラボヘルスの推進を通じた労働環境の整備に向けたコミュニケーション戦略が重要だと考える。

＜学識経験者代表＞
　けんぽアプリを通じた DX の実現として、あらゆるサービスがけんぽアプリで完結することを目指すとあるが、現在の利用状況や、どういった形を目指しているのか教えてほしい。

＜事務局＞
　現在、約 10 万超件がダウンロードされており、今後は電子申請だけではなく健診の申込や、健康情報の共有ができるようなサービスを目指している。

＜事業主代表＞
　中期戦略プランは３年間ということであるが、保険料率も 3 年間 9.9%を維持するという考え方になるのか。

＜事務局＞
　そういうことではない。

議題 3. 支部健康づくり戦略について

＜事務局＞
　資料に基づき説明を行った。

＜被保険者代表＞
大分支部の課題で、糖尿病入院外の一人当たり医療費の高い地域や業種が判明しているのであれば、県全体への啓蒙だけではなく、医療費が高い地域や業種に対して、もう一歩踏み込んだ取組みを考えてほしい。

＜被保険者代表＞
糖尿病入院外の一人当たり医療費の高い地域や業種等が分析できているのであれば、より深く介入できるような取組みをしてみてはどうか。

＜事務局＞
昨年度、糖尿病医療費が高い市の市長を訪問し、状況を説明した。積極的な対策が必要であるという認識は共有しているが、より具体的な取組を実施していかなければならないと感じている。

＜事業主代表＞
糖尿病入院外の一人当たり医療費の高い地域の保険料率を引上げるなど、数値的に何らかの負担をしてもらうことはできないか。

＜事業主代表＞
負担した保険料が、事業所への健康機器の貸出のように事業所側にメリットを感じさせて、健康づくりの取組みに使われていると実感できるような施策を増やしてほしい。

＜学識経験者代表＞
糖尿病入院外の一人当たり医療費の高い地域や業種について、数値のみの情報発信だけではメディアは取り上げにくい。大学と連携し、学生と共同した調査結果の発表など工夫すれば、メディアにも取上げられやすい取組みとなり情報発信につながるのではないか。

＜学識経験者代表＞
糖尿病について、医療費が高い業種は、働き方に問題があるのかも知れない。大学や企業等と共同した研究等による健康づくりを行ってもよいのではないか。また、孤立や孤独が健康に与える影響や、女性の健康への対応の重要性も分かってきているので、そういった視点も組み込んだ対策を行ってほしい。

議題 4. 令和 9 年度事業計画策定に向けた意見聴取について

＜事務局＞
資料に基づき説明を行った。

＜被保険者代表＞
SNS 等を活用した広報について、問題提起したショート動画を流せば若い人たちにも見てもらえる機会を増やせるのではないか。

＜被保険者代表＞
あまり進んでいない事業があれば、活況な事業と組み合わせて普及していくのもよいのではないか。例えば、健康測定機器の貸し出しの際にアプリをダウンロードしてもらい、健康測定結果などをアプリに登録できれば、普及につながると思う。

＜事業主代表＞
広報チラシは手に取った一瞬だけしか見ないが、ポイントが付与されるような広報はしっかりと見る。啓蒙的な広報は結果が見えにくいので、結果を数値化できるような広報を行わないともったいない気がする。

＜事業主代表＞
保険料を負担している企業サイドの目に見えるような施策を実施してほしい。

＜学識経験者代表＞
大分県の健康アプリ「あるとっく」の認知が広まっているように感じている。協会も大分県と連動した健康づくりの習慣化を目指す取組みをしてもよいのではないか。

＜学識経験者代表＞
実施している各事業は分析等に基づくすばらしい取組みである。効果の評価が次のステージであると考える。その結果を踏まえ、行動を起こす仕組みづくりが大切であり、ビフォーアフターが分かる事業の創出をお願いする。健康測定機器レンタルに関しては、数値を見てもらうことで健康意識の向上につながるため、継続する事業としてほしい。

以上

特 記 事 項

・傍聴者なし
・次回評議会は令和 8 年 12 月開催予定